連載コラム

国際交流員の活動日誌

vol.68

Information

市政だより英語ダイジェスト版を市役所、総合支所、保原駅、梁川駅で配布しています。

「感謝の鯨」 Thanksgiving Whale

アメリカでは、11月は感謝祭の月です。第4木曜日が祝日になるので、多くの人は金曜日も休みを取って4連休にします。その感謝祭の夕食では特別な料理が準備され、ほとんどの食べ物はアメリカ大陸発祥のものです。パンプキンパイ、ジャガイモやサツマイモのマッシュポテト、そしてクランベリーソースは基本的な感謝祭の料理ですが、何より大きな七面鳥が代表的です。このアメリカ産のご馳走を毎年食べていた僕は、農地や天然資源がたくさんある地域に恵まれていました。

日本に住んでいても、米国人として感謝祭の祝いをしたくなってきました。来日の時この国にも11月下旬に感謝の祝日があることに驚きましたが、アメリカのように七面鳥が丸々売っていることは珍しいし、見つけても日本の台所で調理できないなと思いました。その代わり、日本に昔からある大変なごちそうで、アメリカのスーパーで見つけられない食品がありました。それはクジラです。感謝祭に七面鳥を食べると「アメリカにいる」と感じるのと同じで、僕は鯨肉を食べる時に「日本にいる」と感じられます。

勤労感謝の日、現代の日本を作ってくれた皆さんを思い出し、終戦後に最も食べられた肉である鯨を食べたいと思います。おいしい和食をいただく日々に感謝の心を持ち、日本の社会の中で、日本の社会のためにがんばっていきたいと思います。（トニー）

地域の魅力 ふる里再発見

松前・梁川藩から舘藩へ -3-

～蠣崎波響（広年）の活躍～

令和４年度第２回企画展
松前・梁川藩から舘藩へ
12/26㊊まで
伊達市保原歴史文化資料館

北海道松前から藩主・松前氏とともに梁川に移った家臣124人の中に、家老を務め、画家として名高い蠣崎広年がいます。

松前藩7代藩主・松前資広の五男に生まれ、8代藩主・道広は異母兄にあたります。家禄500石で藩主一門寄合の蠣崎広武の養子となりました。幼い頃から画を好み、江戸で南蘋派の画家である建部凌岱や宋紫石に学びました。天明20（1783）年頃、松前に約1年ほど滞在した大原呑響と親交を結び、「波響」と号しました。

文化4（1807）年に幕府が蝦夷地を直轄地にしたため、松前家は梁川に移封され、波響も梁川に移りました。松前氏はこの後、旧領復帰の運動を繰り広げますが、このための資金や直接の贈答用に、波響の描いた絵が利用されたと考えられています。

また、復領には、波響の文人としての人脈が大いに役立ったと伝わります。文政4（1821）年に松前家が復領すると、波響も翌年松前に戻りました。後に江戸で病にかかり、文政9（1826）年に松前において63歳で没しました。

伊達市梁川町の旧家には今も蠣崎波響の絵画が残され、同町天神社には波響が復領の際に寄進した石灯籠が立っています（地震被害で現在修繕中）。また、画の門弟には市柳村（旧保原町）の熊坂適山・熊坂蘭斎などがいます。現在、伊達市保原歴史文化資料館では9代藩主・松前章広の書、蠣崎波響・熊坂適山・熊坂蘭斎の絵画を展示中です。

梁川町「蠣崎波響邸跡」
広瀬川が目の前に流れる